



GeoKanto2012 実行委員会

第1回委員会 議事メモ (案)

日 時 平成24年4月20日(金) 10:00-12:00
場 所 地盤工学会 会議室 地階A
出席者 宮田Gリーダー, 並河部会長, 本多部会長, 古屋部会長, 川邊委員, 杉山委員,
清田委員, 早野委員, 吉嶺委員, 大和田委員, 伊藤委員, 橘委員, 竹山委員, 鎌
尾委員, 平川委員, 西岡委員, 永留委員, 川村委員, 森川委員, 三枝連絡委員,
峯岸連絡委員, 青木(事務局)
欠席者 鎌田委員, 小峯, 後藤, 清木, 若井各連絡委員

配布資料

- 資料1: 準備委員会(第2回)議事メモ(案)
- 資料2: 関東支部発表会 Geo-Kanto2012 の計画(3月運営委員会提出資料)
- 資料3: 予約施設(概要・費用)について
- 資料4: Geo-Kanto2012 実行委員会名簿
- 資料5: 準備スケジュール
- 資料6: 概要集 CD-ROM 見積り
- 資料7: 学会誌会告(案)
- 資料8: 江東区報(参考: 一般参加者動員)
- 資料9: 会場施設(日本科学未来館)との事前調整書類(利用内容確認書)
- 資料10: プログラム案
- 資料11: 昨年 Geo-Kanto2011 プラグラム
- 資料12: 昨年 Geo-Kanto2011 開催報告
- 資料13: 研究委員会グループ
- 資料14a~14c: 特別企画参考資料
- 資料15: 企業PRに関して(倫理憲章)
- 資料16: 懇親会検討

討議事項

1. 委員紹介 資料4
 2. これまでの経緯と概略計画(既決定事項)について 資料1~3
- これまでの経緯と概略計画について宮田Gリーダーから説明があった。
(質疑・議論)
- ・ 来年も東京で開催するということでもいいのか?
- ほぼ確定だが, 今年の様子をみてというところもある。

3. 検討項目とスケジュール

資料5

今後の検討項目とスケジュール案について資料5により説明がなされた。

1) 学術部会担当

●プログラム編成

●概要集

資料6

(質疑・議論)

○発表申込と原稿締め切りについて

- ・ 講演概要集 CD-ROM にすることで、原稿の締切日 (8月31日) 以降の受付は難しくなる。
- 投稿と原稿締切を一緒にすればいいのではないか? 2段階にする必要はないのではないか? 8月20日に切ってしまうか?
- プログラム編成を CD-ROM に含めるためには、1週間で編成をしなければならない。
- 盆明けすぐの提出は、結局盆前と同じ。締切は8月末のほうがいい。
- 年度で動いている研究は、成果がまだ出ていない時期。8月末でも盆明けすぐでも同じ?
- 何れにしても、期限に遅れての提出は一切認めないとするのは当然のことではないか?

○支部発表内容について

- ・ 学生の発表という意義もあるが、研究途上でも発表して議論の場とするのがよい。
- ・ 論文投稿数・参加者を増やすという観点から、研究途上や既発表内容の焼直しでも OK とするスタンスを明確にしたほうがよい。

○7月号会告について

- ・ 会告原稿が5月10日頃となるので、総務部会で会告案を作成して学会誌へ出したい。
- ・ 懇親会については、まだ未定の部分が多いので会告には載せない。

(決定事項)

- ・ 原案通り (申込み締切 8/10, 原稿締切 8/31) で、遅れての提出は一切認めない。
- ・ 募集要項に、研究途上や既発表内容も歓迎する旨を示すこと。
- ・ 上記の内容を含めた会告を総務部会で作成して7月号学会誌に載せる手続きをとる。

2) 企画部会担当

●特別企画について

資料10~14

平川委員より資料により特別企画の案について説明がなされた。

(質疑・議論)

- ・ 多くのセッションが平行して進められるのは構造的に問題があるのではないか? 集客を考えてうまくセッション配置するのが大切。逆にあまり欲張らないで絞った方がいいのではないか?
- ・ 1日コースにしたことの弊害ではあるが、議論の前提として関東支部さらには地盤工学会全体の活性化の目的があって、いままで参加してない人をどれだけ呼び込むかが一つの鍵になっている。そこでこのような企画が考えられたという経緯がある。
- ・ 論文発表数 (一般セッション発表) を増やすことと、特別セッションへの聴講者を増やす話を分けた方がいい。どちらをより大きな目的とするかで考えないといけない。個人

的には後者がより大きなウェイトを占めるのではないか？

- ・ そうだとすれば、一般セッションとかぶるのは多少仕方がないとするのではないか？
- ・ 対象とする人を分けて考えてはどうか？ 会場 1（大ホール）では一般市民を対象として、会場 2（小ホール）をより専門的に技術者を対象とするのはどうか（棲み分け）。
- ・ 企画 3）と 4）は興味深いので、時間をずらしてできるだけ聴ける機会を増やしたい。
- ・ 企画 7）（支部長特別セッション）は、國生支部長から直下型地震被害想定について市民への情報発信をするべきとの意見があって入れたもの。
- ・ 企画 6）（工法・企業 PR）は企画 1）（若手交流）と内容が重複する部分もあるので一緒にしてもいいのではないか？
- ・ 企画 4）については、案 1) 2) があるが、どちらか一方を考えている。今のところ案 1) でいきたい。
- ・ 企画 2）（研究委員会）は大きな会場でなくてもよい。
- ・ 3), 4), 7) の時間がかぶらないように
- ・ 企業からの発表を増やす必要があるのではないか？
→ 工法特定セッション(企画 6))は人気があり、企業の参加を促す可能性があるので、極率して残した方がよい。
- ・ 国交省の震災対応型技術開発助成に「液状化対策」「がれき処理対策」があって、民間や大学が連携してテーマがあがっている。8 月末で終了するので、発表内容としてはとても旬でいいと思う。ただ国交省の発表会（10 月）の方が後になるので、その前に発表することを許してくれるかどうか？
- ・ アウトリーチすることが目的になっているので、一般市民に発表することは問題ないと思う。
- ・ 横国大谷先生が液状化対策のテーマをやられている。清田委員に情報提供をお願いしたい。

会場 1（大ホール）→ 一般向け 企画 3）および 7）

会場 2（小ホール）→ 技術者向け 企画 4）

企画 1), 5), 6) を一緒にして一般セッションの広めの会場へ

企画 2) を一般セッションへ

(決定事項)

- ・ 次の委員会（2 ヶ月後）では遅くなるので、企画部会で再度セッション編成案を作成してもらい、メールにて審議をしたい（5 月中）。
- ・ 国交省の技術開発助成研究の成果発表に関しては、古屋委員と清田委員に情報を整理してもらって、発表セッション案を作成してもらおう。
- ・ 上記の成果発表は企画 4）の案 2) とかぶるので、企画 4）は案 1) のみとする。

●懇親会について

資料 16

懇親会案について永留委員より説明があった。

- ・ 現状の案では 200 人 + α の参加が望ましい。100 名コースでも可能だが質が落ちる。
- ・ どのくらい的人数が参加されるか難しいが、200 人 or 100 人については早い段階で決める必要がある。

(決定事項)

- ・ いつまでに何を決めなければならないか明確にして、今後スケジュールを調整すること。

3) 総務部会担当

●登録・会計・広報

●会場・アルバイト

資料 2, 資料 7～9 にて説明がなされた。

- ・ 江東区については、石原先生、國生先生、宮田先生、平川先生で 2 月に江東区土木部長と会って、企画の段階から全面的に協力するという話になっている。特別企画の内容も含めて、動員計画も考えていきたい。
- ・ 会場には事務局の部屋はあるのか？
→ みらい館ホールを借りると、応接室、控室、打合せ室がついてくる。
- ・ 会場 6 は 2 分割可能なので、セッションを増やすことも可能。
- ・ 今回は参加費無料で収入は投稿料のみと財政的に苦しい。特別セッションであっても投稿料はなるべく支払ってもらおうようにした方がいい。その代わりに論文投稿は発表スライドのみも特別に受け付けることにしてはどうか？
- ・ 参加者が増えても収入にはつながらないので、投稿料の徴収範囲についても次回委員会までには考えたい。

(決定事項)

- ・ 次回委員会までには、投稿料の考え方なども含めて、詳細を詰めて議論したい。

4. その他

(1) 次回委員会 平成 24 年 6 月 14 日 (木) 10:00～

以上